

17 19世紀の欧米

①ウィーン体制

オーストリア帝国の首都ウィーン。ナポレオン戦争の戦後処理を話し合うため、ヨーロッパ各国代表が集まり、**ウィーン会議**が始まった(1814)。議長は**メッテルニヒ**。オーストリアの外務大臣だ。**ウィーン議定書(1815)**がまとまるまで、各国の利害がぶつかり合い、頻繁に舞踏会が催されたので、「**会議は踊る、されど進まず**」といわれた。

ところで、ナポレオンに一度も負けなかったのはどの国かな？

◎オーストリア、は負けてますね…あっ、島国のイギリスです。

そうだね。島国のイギリス。それからもう一つ、広大な領土を持つロシアだ。オランダも、オーストリアなど他の欧州諸国はみな、一度はナポレオンに降伏している。**イギリスとロシアは当然、分け前(領土)を要求し、国際政治の主導権を握ろうとする**。無力なオーストリアが英・露と肩を並べて、列強(大国)としての地位を保つにはどうしたらいいか。これが、メッテルニヒに課せられた課題だ。彼は言った。

「フランス1国が、全ヨーロッパを征服しようとした結果、ナポレオン戦争という悲劇が起こりました。今後は二度と、このようなことは認めません。戦後のヨーロッパでは、**4大国の勢力均衡によって秩序を維持**しましょう。4大国とは、**英・露・普・そして奥**です」

会議にはフランス代表として**タレーラン**が出席した。ナポレオン政権は崩壊しているので、パリに戻ったブルボン家(ルイ18世)の外務大臣だ。敗戦国の代表として、フランスの領土と名誉をいかに守るかが、タレーランに課された使命だ。彼は言った。

「ヨーロッパ征服を企てたのはフランスではありません。ナポレオンです。フランス国民はこの戦争を望んでいませんでした。あの独裁者ナポレオンが勝手に侵略戦争を始め、フランス国民を巻き込んだのです。われわれも被害者なのです」

「独裁者は倒れ、パリにはブルボン家に戻りました。ブルボン家に戦争責任は問えません。平和の回復には、時計の針をバスティーユの前に戻すことです。革命前の秩序を正統とする**正統主義**を会議の原則にしましょう」

この論理に、戦勝国は誰も反論できなかった。フランスは、敗戦国としての不名誉をまぬがれ、領土も賠償金も取られなかった。

◎ええっ、そんなのありですか！

第二次大戦後の日本やドイツと比べるとおもしろいね。ブルボン家に戻ってきた、というのが大きかったね。それと、タレーランの外交手腕のものすごさ…

📖 変節と謀略に生きたタレーラン

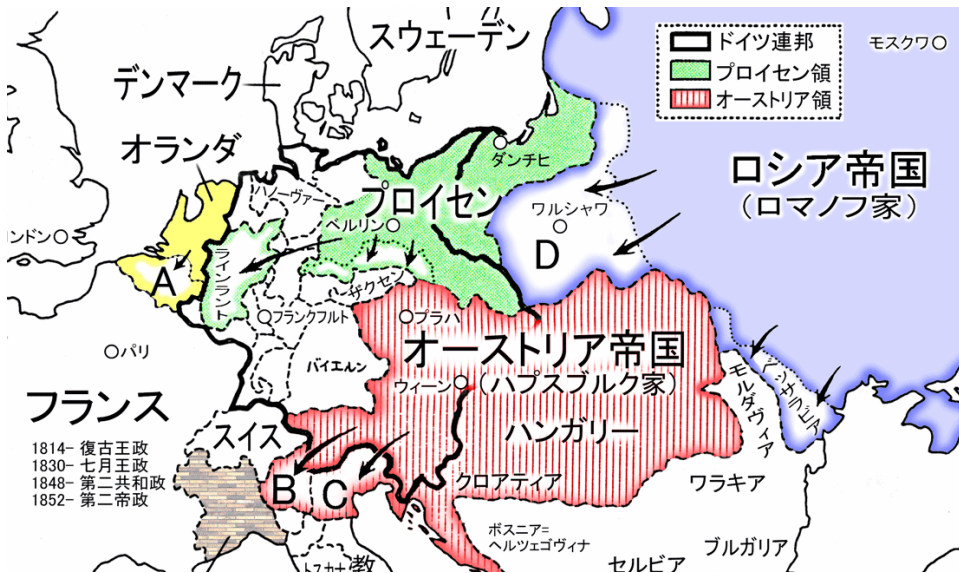
貴族出身のタレーランは、足が不自由だったため馬に乗れず、聖職者となった。三部会では第一身分の議員だったが教会財産の国有化を進めて教皇から破門された。恐怖政治の時は駐英大使だったので無事で、総裁政府の外相になったがブリュメール18日クーデタの黒幕となり、ナポレオン政権の外相としてアミアンの和約を結んだ。ナポレオンがロシア遠征に失敗するとロシアに内通し、ブルボン家を迎えて復古王政の外相となり、ウィーン会議にフランス全権として出席した。

タレーランにとって価値があるのは「生き残ること」であり、主義主張にはまったくこだわらない。ルソーの思想に人生をさげすめたロバスピエールとは真逆の生き方だ。

個人としては「いやなやつ」だが、「国家の生き残り」を最優先しなければならない外交の場においては、タレーランのこの才能は最高度に発揮された。

…となると、ナポレオンに協力した弱小国家をつぶして、その領土を戦勝国で分配するしかない。まず犠牲になったのはポーランドだった。

ナポレオンがプロイセンから切り離したワルシャワ大公国は廃止され、**ロシア皇帝がポーランド王を兼ねて事実上併合**することになった。ライン同盟も解体され、**ライン川流域(ラインラント)の鉱工業地帯をプロイセンが併合**した。

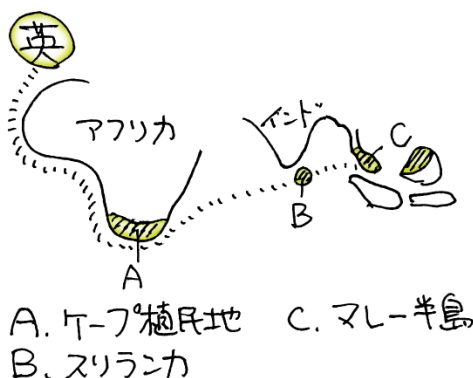


イギリスはヨーロッパの領土争いには無関心で、植民地の拡大に突き進んだ。戦争中、アフリカとアジアにちらばっていたオランダ植民地を次々に占領した。

◎どうしてオランダが植民地を取られちゃったんですか？

オランダは真っ先にフランス軍に占領された。ナポレオンの弟ルイがオランダ王として送り込まれ、最後は大陸封鎖の徹底のため、フランス帝国に併合された(1810)。イギリスからみれば、海外のオランダ植民地も敵国フランスの一部になったのだから、占領してよい、ということになる。

ウィーン議定書では**ケープ植民地とスリランカをイギリス領**とした。英蘭協定(1824)では、**マラッカ海峡以北(現在のマレーシア)のオランダ領をイギリスに割譲**した。イギリスはマレー半島に**海峡植民地**を建設し、中国貿易も独占することになる。



しかしオランダは好きでフランス領になったわけではないので、植民地を手放す見返りとして**オーストリア領南ネーデルラント(ベルギー)**をオランダに割譲した。一方、オーストリアは北イタリアの**ロンバルディアとヴェネツィア**を併合した。

これらの領土変更については、住民の意思は完全に無視されたため、オランダからの**ベルギー独立運動**、ロシアからの**ポーランド独立運動**、英領ケープからの**オランダ人(ボア人)の大移動**など、多くの民族問題を引き起こすことになる。

次は、勢力均衡を維持するための同盟の締結だ。

ロシアのアレクサンドル1世は、神聖同盟の結成を提唱した。

「フランス革命は無神論者が引き起こした。すべてのキリスト教国の君主たちは、キリスト教文明を守るため、神聖な同盟を結ぶべきだ」

イスラム国家の**オスマン帝国**、ロシア正教を認めない**ローマ教皇**、ロシアの主導権を嫌う**イギリス**を除く、全ヨーロッパの君主が加盟したが、あくまで精神的な同盟であり、加盟国が多すぎて具体的なことは決めにくい。そこで、戦勝4大国——**イギリス・プロイセン、オーストリア、ロシアで四国同盟を結成**し、革命が発生したときに軍事行動がとれるようにした。

◎これって、対仏大同盟と同じですね。

うん。だから王政復古が安定すると、フランスも加盟して**五国同盟**となった。**スペインの立憲革命**や**イタリアのカルボナリ革命(1820)**に干涉軍を派遣したが、自由主義を認めるイギリスと他の加盟国が対立し、フランスの**七月革命(1830)**を阻止できなかった。

ドイツ諸国は**オーストリアを盟主にしてドイツ連邦**を結成した。これについてはドイツ統一のところで説明しよう。

フランス革命とナポレオン戦争の影響は、地球の裏側にも及んだ。**ラテンアメリカ(中南米)の植民地**で、一斉に独立運動が起こったのだ。

最初に独立したのは**フランス領ハイチ**だ。黒人奴隷の**トゥサン=ルヴェルチュール**はフランス語を学び、フランス本国で革命が起こったことを知った。人権宣言の第1条に、「人は生まれながらにして自由で平等である」とある。奴隷制度は人権宣言に違反する。「黒いジャコバン」と呼ばれたトゥサの呼びかけで黒人たちは立ちあがり、ナポレオン軍を撃退してハイチ独立を宣言した(1804)。世界初の黒人共和国だ。

ナポレオン軍のスペイン占領に乗じて、**シモン=ボリバル**は**ベネズエラ、コロンビア、ボリビア**などを解放し、**サン=マルティン**は**アルゼンチン、チリ、ペルー**を解放した。ポルトガル領**ブラジル**は、ナポレオンに追われて亡命してきたポルトガル王族を受け入れる代わりに、念願の独立を認められた。

スペイン王の訴えを受けた神聖同盟はロシア軍の派遣を検討したが、アメリカのモンロー大統領とイギリスのカニング外相の反対を受けて断念した。このことはアメリカ史のところで説明しよう。

②19世紀のフランス

◎ナポレオンが負けたあと、フランスはどうなったんですか？

ルイ16世の弟、**ルイ18世**と**シャルル10世**が王位を継いだ。このブルボン家の**復古王政**(1814-30)を支えたのがタレーラン外相だ。あのタレーランさえ、こう嘆いた。

「(ルイ18世は)何事も学ばず、何事も忘れず」

革命から何も学ばず、革命前の優雅な暮らしを何も忘れていない、という意味だね。

🐭 ルイ17世の謎

ルイ16世とマリ=アントワネットの息子は、両親が処刑されたとき8歳で、2年間の投獄生活ののち病死した。ところが死んだ少年というのは替え玉で、「ルイ17世はどこかで生きている」という、うわさが絶えなかったが、確証はなかった。

死んだ少年の心臓のミイラがシベリの教会で保管されていたが、2004年にDNA鑑定が行われた結果、ルイ17世本人であることがようやく確認された。

ブルボン家最後の王**シャルル10世**は、**七月勅令(1830)**で議会を解散し、言論の自由を弾圧した。国民の不満を外に向けるため**アルジェリア出兵**を行ったが、パリ市民は立ち上がり、王はロンドンに亡命した。これが**七月革命(1830)**だ。この革命の影響で、オランダに対する**ベルギーの独立運動**、ロシアに対する**ポーランドの独立運動**、イタリアの**カルボナリ革命**が1830年に発生し、英の**第1回選挙法改正(1832)**、にも影響を与えた。

ロマン派の画家**ドラクロワ**の大作「民衆を導く自由の女神」。革命の旗・三色旗を持つ女性は、「自由」という抽象概念を女性の姿で表したものだ。「自由」の後に続くパリ市民たち。シルクハットの資本家から、無精ひげの労働者まで、すべてのパリ市民だ。

19世紀のフランス

I 復古王政

①
ブルボン家
シャルル10世

立憲君主政！

★

大資本家 …… 下層市民

II 七月王政(1830-)



オルレアン家
ルイ=フィリップ

制限選挙

★
大資本家
ギゾー

男子普通選挙！
改革宴会！

②

産業資本家 …… 労働者



▲ドラクロワ「民衆を導く自由の女神」

① **七月** 革命(1830)

② **二月** 革命(1848)

◎革命を防止する神聖同盟や四国同盟は、干渉してこないんですか？

そこが問題だ。七月革命の主導権を握った大資本家たちはいった。

「市民諸君、共和政にすると外国が干渉してくる。イギリス型の立憲君主政にしよう！」

そこで、**オルレアン公ルイ=フィリップ**を王とする**七月王政(1830-48)**が成立した。オルレアン公はブルボン家の親戚で、ラファイエットと同じ自由主義貴族だ。

議会が再開されたが、極端な制限選挙が行われ、選挙権を得たのは人口のわずか0.08%だった。結局、大資本家が選挙権を独占したのだ。「市民の王」と自称したルイ=フィリップは、「株屋の王」と嘲笑された。

七月王政期にはフランス産業革命が進展したが、工場経営者として台頭した産業資本家にも労働者にも選挙権がなく、彼らは男子普通選挙を要求した。

◎大資本家と産業資本家ってどう違うんですか？

銀行家・大商人など金融・商業で富を得たのが大資本家(商業資本家)、綿工業など工場経営者として富を得たのが産業資本家だ。銀行家出身のギゾー首相は、「選挙権が欲しければ金持ちになれ」と発言し、公共の場でのデモや集会を禁止した。

市民たちは「改革宴会」と称してパーティー会場での政府批判を繰り返し、ギゾーはこれも禁止したため不満が爆発、**二月革命(1848)**が勃発した。

ルイ=フィリップは英国へ亡命し、産業資本家と労働者が協力して**臨時政府**を樹立、**第二共和政**を宣言した。これ以後、**王党派(大資本家・農民)**、**共和派(産業資本家)**、**社会主義者(労働者)**という3つの勢力が、離合集散を繰り返す。

フランス二月革命は、**ウィーン体制を崩壊させた**。革命の知らせは、当時の最新テクノロジーだった**電信(モールス信号)**によって瞬時に全ヨーロッパに打電され、各国政府は情報の広がりを抑えられなかった。ドイツ・イタリア諸国では**三月革命(1848)**の結果、**フランクフルト国民議会(48-49)**、**ローマ共和国(49)**が成立した。オーストリアのメッテルニヒはロンドンへ亡命し、神聖同盟も崩壊した。チェコやハンガリーでも独立運動がおこった。これらをひっくるめて**「諸国民の春」**と呼ぶ。

ポイント ウィーン体制は七月革命(1830)で動揺、二月革命(48)で崩壊した。		
	西欧諸国	独・伊・東欧諸国
七月革命(1730) の影響	蘭からの ベルギー独立 (30) 英で 第1回選挙法改正 (32)	露からの ポーランド独立運動 (30) 伊で カルボナリ革命 (30)
二月革命(1848) の影響	英で チャーティスト運動 が高揚(48)	独・伊諸国で 三月革命 (48) 独で フランクフルト国民議会 (48-49) 伊で ローマ共和国 成立(49)
	因果関係はないが、米国の カリフォルニアを併合 (48)。	

パリの臨時政府では、共和派の詩人**ラマルティーヌ**が外務大臣に、社会主義者の**ルイ=ブラン**が労働大臣に就任した。世界初の労働大臣となったルイ=ブランは**国立作業場**を設立、失業者を集めて、革命で破壊されたパリ市の再建に雇用し、政府が給与を支払った。公共事業による失業対策だね。

「パリに行けばメシが食える！」

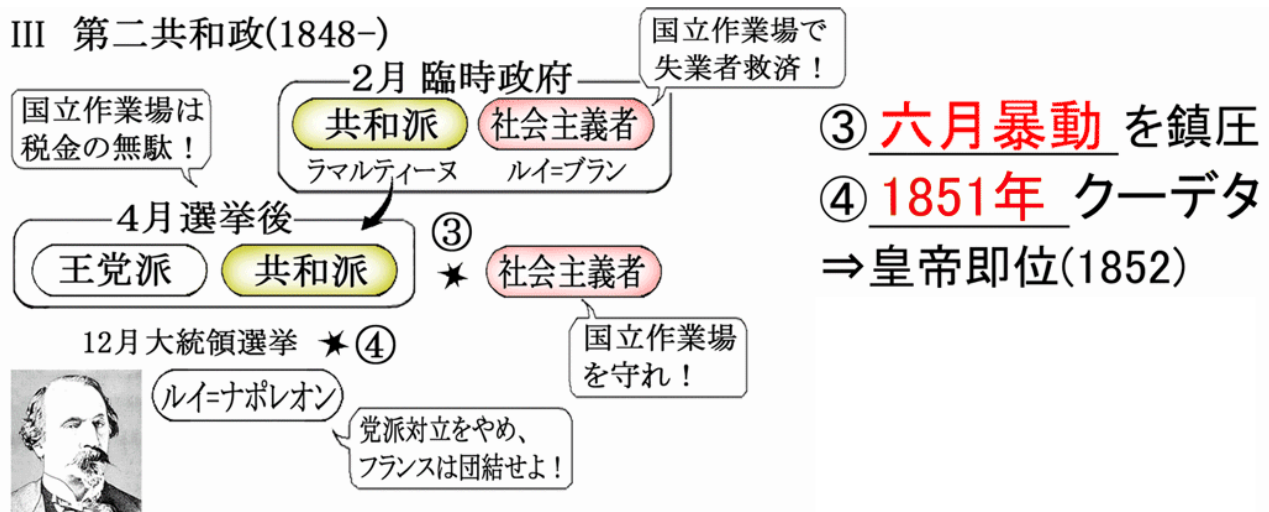
全国から貧困層がパリに集まり、その数10万人。そんなにたくさんの仕事はパリにはない。それでも政府は失業対策で財政赤字に転落。資本家・農民が猛反発した。

「おれたちが払った税金を、労働者にばらまくのが社会主義か！」

4月の議会選挙では、**男子普通選挙**にも関わらず王党派・共和派が勝利し、社会主義者は政府から排除された。フランス国民の多数はフランス革命で土地を得ていたことを覚えているね。労働者は少数派だったのだ。新政府は国立作業場を閉鎖した。これに憤る労働者がパリで暴動を起こしたが、政府軍に鎮圧された(**六月暴動**)。

このあと、12月の大統領選挙に向けて、各党派が足の引っ張り合いを続けた。国民の間にはシラケムードが漂っていた。

III 第二共和政(1848-)



「いまさら王党派もありえないし、共和派って金持ちだし、社会主義者はアホだし、今度の大統領選挙は棄権しようかな…」

そこに、第4の候補として登場したのがルイ=ナポレオンだ。

「誰にも入れたくないのなら、私に清き一票を！」

◎えっ、誰ですか？

「1世の弟、オランダ王ルイの息子だ。ウィーン体制下では各地を逃げ回っていたが、パリに戻った。なぜフランス人同士で争う？ 私は、王党派でもあり、共和派でもあり、社会主義者でもある。私はフランス人だ！ フランスは団結し、栄光を取り戻そう！」

👤 ナポレオン2世

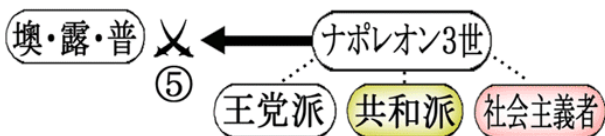
ボナパルト家3兄弟のうち、次男が皇帝ナポレオン1世となり、兄ジョゼフがスペイン王、弟ルイがオランダ王となった。ナポレオン1世は最初の妻ジョゼフィーヌが子どもを産めなかったため、ハプスブルク家の皇女と再婚して男子(ナポレオン2世)を得た。

ナポレオン2世は物心つく前に父が失脚してしまい、ウィーンでメッテルニヒの監視下に置かれた。フランス人の希望の星だったが、父に憧れて軍事訓練を好み、結核を悪化させて21歳で病死した。いとこのルイ=ナポレオンは「ナポレオン3世」を称した。

選挙の結果、ルイ=ナポレオンが75%の得票で大統領に当選。圧倒的な世論の支持を背景に、**議会を解散(1851年クーデタ)、憲法を改正して独裁権力を握った**。翌年、**国民投票を経て皇帝ナポレオン3世として即位**。これが**第二帝政(1852-70)**だ。

王党派・共和派・社会主義者の党派対立の調停者として出現したナポレオン3世は、世論の支持をつなぎ止めるため特定の勢力にかたよらず、国外には常に敵を作って独裁を維持した(このような政治体制を「ボナパルティズム」という)。

IV 第二帝政(1852-)



⑤ クリミア戦争(53-) 伊統一戦争(59)

◎人気取りって、何をやったんですか？

産業革命の成果を誇示した第1回ロンドン万博に対抗して**パリ万博**を開催し、これに合わせて**パリ市の大改造**を行った。中世以来の細い路地を廃止して、直線道路と丸い広場を基軸に、建物の高さも色も整然と統一された現在のパリ市を建設した。

ポイント ナポレオン3世(第二帝政)の政策	
内政	・ パリ万博 とパリ市の大改造。 ・王党派、共和派、社会主義者の対立を調停、団結させる。
外征	・ クリミア戦争(53-) で露に勝利。 ・ アロー戦争(56-) で清朝に勝利。 ・ インドシナ出兵(58-) で阮朝ヴェトナムに勝利。 ・ イタリア統一戦争(59) で奥に勝利。 ・ メキシコ出兵(60-) でメキシコ(ファレス政権)に敗北。 ・ 普仏戦争(70-) で普(ビスマルク)に敗北。

※個々の戦争の経緯については、それぞれの単元で説明しよう。

外敵としたのは、奥・露・普。叔父ナポレオン1世の失敗に学んでイギリスとは協調し、**クリミア戦争**や**アロー戦争**では英と共同出兵して勝利をおさめ、国民は拍手喝さいした。しかし、最後の相手がまずかった。ドイツ統一を進めるプロイセンのビスマルクだ。

フランスにとって、隣国ドイツに強力な統一国家ができず、バラバラでいてくれたほうが安心できる。200年前に宰相リシュリューが三十年戦争に軍事介入して、神聖ローマ帝国を崩壊させたのはこれが目的だ。だからビスマルクによるドイツ統一をナポレオン3世は警戒し、妨害した。その結果起こったのが、**普仏戦争(1870-71)**だ。

市民の喝さいを受け、豪華な馬車に乗って華々しく出陣したナポレオン3世は、国境の**セダンの戦い**で**大敗**、ドイツ軍の捕虜となった。ドイツ軍の侵攻に備えてパリでは**共和派**と**社会主義者**が国防政府を樹立。しかし、戦争長期化による経済的損害を恐れる共和派(資本家)は早期講和を求め、徹底抗戦を叫ぶ社会主義者と決裂、西部のボルドーに避難した**共和派は、王党派と連立してボルドー臨時政府を樹立、ティエールを行政長官(首相)とし、ドイツと講和した。**

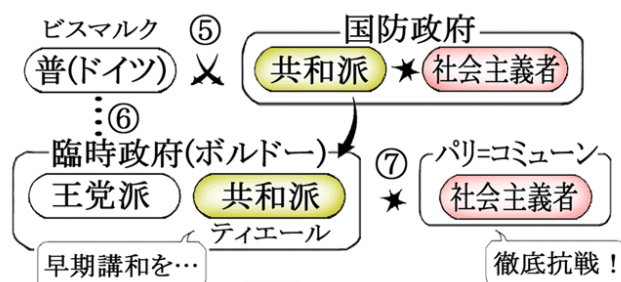
この**フランクフルト講和条約**で、フランスは賠償金を支払い、ドイツ国境の2つの州、**アルザス・ロレーヌ**をドイツに割譲した。ビスマルクはウェストファリア条約で奪われた土地を、200年ぶりに奪回したことになる。



屈辱的な講和に怒ったパリ市民は講和を拒否し、臨時政府からの武装解除命令も拒否、パリ市に自治政府——**パリ=コミュン**を樹立した。ロンドンにいたマルクスは、「**世界初の労働者政権**」と称賛した。実際には労働者を含む市民の革命政権だ。

革命の広がりを恐れたボルドー政府は、ドイツ軍にも協力を求め、パリ市を包囲した。コミュンは徹底抗戦を叫んだが、ナポレオン3世のパリ市大改造によって、バリケードを作るのに適した細い路地は消えていた。大通りを進軍する政府軍の砲撃で3万人が戦死するという「血の1週間」によって、パリ=コミュンは崩壊した。これが、パリで起こった最後の革命となった。

V 第三共和政(1870-)



⑤ 普仏 戦争(70-)

⑥ フランクフルト

講和条約(70-)

⑦ パリ=コミュン

を鎮圧(71)

このあと第三共和国憲法が制定され、共和派のティエールが正式に初代大統領に選ばれた。これが**第三共和政**(1870-1940)で、のちに**第一次世界大戦**でドイツを破ってアルザス・ロレーヌを奪回した(**ヴェルサイユ条約** 1919)。

しかしヴェルサイユ条約でドイツに課した賠償金などの過酷な制裁が、今度はドイツの民族主義を刺激し、ヒトラーの台頭を招く結果になった。第二次世界大戦で独・仏は、3度目の死闘を交えることになる。

👉 **パリ=コミュン**はなぜ失敗したか？

フランス革命中、ジャコバン政権が貴族の土地を農民に分配し、**自作農**が国民の大多数になっていた。土地を得た農民は保守化し、穏健な共和政を支持した。パリの労働者を中心とするコミュンは孤立し、政府軍に鎮圧された。パリ=コミュンの失敗を見た**マルクス**は『フランスの内乱』を著し、革命政権の防衛のためには労働者階級の手による強力な独裁権力の樹立が必要だ、という**プロレタリアート独裁**の理論を唱えた。これを学んだのが**レーニン**で、のちに**ロシア革命**を指導して、**ソヴィエト連邦**という史上最強の労働者独裁国家を樹立した。

フランスの政体

第三共和政(1870-1940)の時代にフランスは帝国主義列強の一つとしてアフリカ分割、中国分割に加わり、第一次世界大戦でドイツを破ってアルザス・ロレーヌを奪回し、国際連盟の理事国となった。

しかし、敗戦国ドイツに対してヴェルサイユ条約を押し付け、過大な賠償を課したためにドイツ人に恨まれ、第二次世界大戦ではヒトラーに攻め込まれ、パリが陥落して第三共和政は崩壊。北仏はドイツ軍が占領し、南仏にはドイツの傀儡(かいらい)国家である**ヴィシー政府**が成立。ユダヤ人狩りに協力した。

ドイツ軍の敗退後、**第四共和政(1945-)**が発足するが、インドシナ・アルジェリアなどの植民地独立戦争でボロボロになり、軍に支持された**ド=ゴール**将軍が憲法を改正して大統領権力を強化し、**第五共和政(1958-)**となった。現在のフランスは、第五共和政。

フランス革命時の第一共和政からド=ゴールの第五共和政まで、目まぐるしく変わる政治体制の順番と、体制転換を引き起こした事件を、正確に言えるようにしておこう。

- ①**第一共和政**…国民公会…8月10日事件(1792)で男子普通選挙
総裁政府…テルミドルのクーデタ後、1793年憲法制定
統領政府…ブリュメール18日のクーデタ(1899)
- ②**第一帝政**…ナポレオン1世即位(1804)
- ③**復古王政**…ナポレオン失脚とレイ18世即位(1814)
- ④**七月王政**…七月革命(1830)でレイ=フィリップ即位
- ⑤**第二共和政**…二月革命(1848)で臨時政府成立
- ⑥**第二帝政**…ナポレオン3世即位(1852)
- ⑦**第三共和政**…普仏戦争(1870-71)でボルドー臨時政府成立
- ⑧**ヴィシー政府**…第二次大戦でペタン将軍がドイツに降伏(1940)
- ⑨**第四共和政**…独軍敗走でド=ゴール将軍が帰国(1945)、新憲法の制定(46)
- ⑩**第五共和政**…アルジェリア駐留仏軍の反乱(1958)を機に憲法改正

③19世紀のイギリス

19世紀のイギリスは、ナポレオン戦争ではじまった。イギリスの敵はフランスだけではなく、植民地 아일랜드でも独立の動きがあったからだ。

クロムウェル以来、イギリス人地主に土地を奪われ、カトリックの信仰を弾圧されるなど過酷な支配を受けてきたアイルランドでは、同じカトリックのフランスに対する親近感が強かった。独立派はナポレオンから軍事援助を受けて、立ち上がろうとした。

イギリス首相ピットは、アイルランドに妥協してこの動きを封じようとした。大ブリテン王国(イギリス)とアイルランドを合併して**連合王国 the United Kingdom**とし(1801)、アイルランド人にもイギリス国民としての権利を認めようというわけだ。連合王国の国旗ユニオンジャックには、アイルランド国旗の「斜め赤十字」が加えられた。



ここで問題が発生した。イギリスには、「公職に就く者はイギリス国教徒に限る」という法がある。カトリックの排除を目的にした方だ。覚えているかな？

◎首長法…じゃなくて審査法、ですね。

そうだね。だからアイルランド人の4分の3をしめるカトリック教徒は、大臣や議員になれない。一方、アイルランドに住むイギリス系移民は国教徒なので「イギリス国民」として扱われた。こうやって、アイルランド住民を分断したわけだ。

オコンネルは審査法の不当性を訴えるため、あえてロンドンの議会議員に立候補して当選し、国教会に対する宣誓を拒否して失職した。アイルランドのカトリック教徒は衝撃を受け、宗教差別撤廃を求める大規模なデモが始まった。この混乱が独立運動に発展することを恐れたイギリスは、**審査法を廃止(1828)**し、すべての宗教差別を禁じる**カトリック教徒解放法(1829)**を制定した。オコンネルらアイルランド系カトリックはロンドンの議会で議席を獲得し、小作料の引き下げや、自治権の獲得を目指して活動した。しかし議会の多数派はイギリス人の保守党と自由党で、アイルランドの声は届かない。アイルランドの小作人は貧困のまま放置され、主食はパンではなくジャガイモだった。南米のアンデスが原産で、寒冷地でも収穫できるジャガイモは、「貧者のパン」と呼ばれた。

ジャガイモ飢饉(1840 年代)は、ジャガイモが伝染病にかかって収穫ゼロになったため起こった。アイルランド人の10%が餓死し、40%が経済難民となってアメリカ合衆国へ移住した。いまでも世界も最も多くアイルランド人が住む国は、アイルランドではなくアメリカ合衆国だ。

◎ジャガイモがなくても、パンを食べればいいじゃないですか!?

そのパンが高くて買えなかったんだ。小麦の輸入を制限する**穀物法**の影響だ。もともとイギリスは寒冷で土地がやせており、穀物生産には向かない。一方、フランスは温暖で土地は豊かだ。だから、フランスから穀物を輸入して、イギリスは工業製品を輸出していた。対仏戦争で穀物の流入が止まると、イギリス国内で穀物価格が高騰し、地主は**第2次囲い込み**を進めて穀物を増産した。このことは前に話したよね。

ナポレオンは、フランスの工業を守るため**大陸封鎖令**を發布し(1806)、イギリスと欧州諸国との貿易を禁止した。イギリスの輸出産業＝綿織物業界(産業資本家)は損害を受けたが、逆に地主は喜んだ。**欧州産の安い穀物が入ってこなければ、国産の高い穀物が売れるからだ。**

ナポレオンが敗北し、大陸封鎖令が解除されると、地主はあせった。

「まずい、欧州産の穀物が入ってくるのを阻止しろ！」

下院議員の多くは地主の出身だ。イギリス議会は**穀物法を制定(1815)**し、穀物輸入を制限した。このように、**国内産業を守るために輸入を制限することを保護貿易**という。逆に大陸封鎖令解除を喜んだ産業資本家は、綿布の輸出拡大を求めて自由貿易を求め、穀物法に反対した。貿易自由化をめぐり、地主と産業資本家は激突する。

👉 ジャガイモ飢饉とケネディ家

ジャガイモ飢饉のとき、200 万人以上のアイルランド人が故郷を捨て、その大半はアメリカ合衆国へ移住したが、新教国アメリカでもアイルランド系カトリック移民は排斥され、ニューヨークやボストンの最下層の労働者として生きるしかなかった。

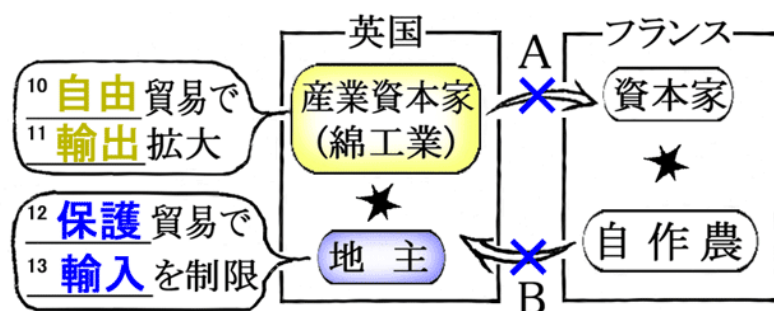
移民の中にケネディという一族がいた。パトリック・ケネディはボストンで労働者から身を起し、バーを開いて成功し、州の下院議員に当選した。息子ジョセフは実業家として F.ローズヴェルトの選挙活動に資金を提供し、駐英大使を務めた。孫の**ジョン・F.ケネディ**は上院議員を経て、**合衆国大統領に選出**された。カトリックでアイルランド系というハンディを乗り越えて頂点に立ったわけだが、任期中に暗殺されるという悲劇的な最期を迎えている。

◎輸出は自由貿易、輸入は保護貿易にすればいいとおもいます。

いや、そういうわけにはいかない。貿易は相手国があるので、こちらが保護貿易を採用すれば、相手も保護貿易で対抗する。「フランス産の穀物輸入を制限する」といえば、フランスは「イギリス産の工業製品輸入を制限する」といつてくる。だから、相手国に自由貿易を認めさせるには、こちらも自由貿易を認めるしかない。また、パンの高騰は労働者の生活を直撃する。資本家は賃金を上げれば、工業製品の価格も上がり、輸出に不利になる。

貿易をめぐる争いは、二大政党の対立と結びついた。**保守党(トリー党)**は地主を擁護して保護貿易の継続を主張し、**自由党(ホイッグ党)**は産業資本家の支持を期待して自由貿易への転換を主張した。

貿易の自由化



※保護貿易の例

A. ナポレオンの
14 **大陸封鎖令** (-1815)

B. 15 **東インド会社** の
貿易独占権 (1600-)
16 **航海法** (1651-)
17 **穀物法** (1815-)

◎イギリスは工業国なんだから、自由貿易にしたほうがいいと思います。

理屈はそうだが、自由貿易にして安い穀物が入ってくればイギリス農業はどうなる？というのが地主の言い分だ。あとは選挙で決めればよいのだが、選挙制度が圧倒的に地主に有利だった。中世以来の選挙制度は、一定の土地を持つ者に選挙権を認めていた。地主には選挙権があるが、都市部に住む産業資本家の多くは参政権を持たなかった。

また、産業革命にともなう人口移動の結果、マンチェスターなどの都市部に人口が集中し、スコットランドなどの農村部では過疎化が進んだ。過疎地の選挙区では有権者が数十人なんてところもあった。こういうところでは地主出身の候補者が、選挙民を接待し、金品を配って投票を依頼した。カネで票が買われる**腐敗選挙区**だ。

フランスで**七月革命(1830)**が成功すると、イギリスでも腐敗した議会に対する抗議活動が盛り上がった。選挙制度改革を掲げて選挙に勝利した**自由党のグレイ内閣**は、**第1回選挙法改正(1832)**を断行し、腐敗選挙区の廃止と産業資本家への選挙権付与を実現した。選挙権を獲得した産業資本家は、当然、自由党の熱心な支持者となった。**東インド会社の貿易独占権廃止(1834)**もこの彼らの要求で実現した。

マンチェスターの産業資本家**コブデンとブライト**は**反穀物法同盟**を結成し、穀物法廃止の新聞広告を出し、大規模な集会を開いて議員に圧力をかけた。

保守党のピール内閣は世論の批判に抗しきれず、アイルランドの飢饉を機に**穀物法を廃止した(1846)**。クロムウェル時代に制定された**航海法も廃止され(1849)**、イギリスは自由貿易に移行した。

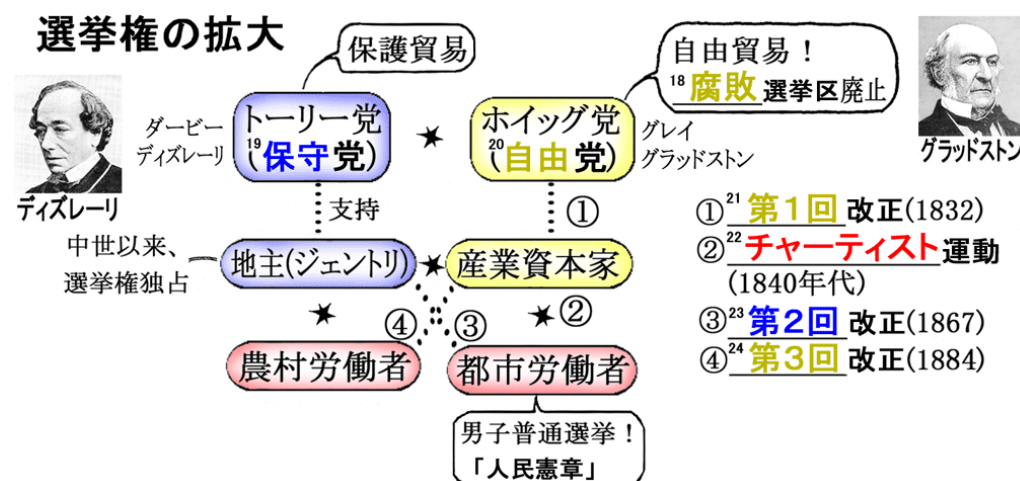
第1回選挙法改正では、労働者の参政権を認めなかった。**男子普通選挙を求める人民憲章(ピープルズ=チャーター)**を議会に提出した**労働者の運動(チャーティスト運動)**は、フランス二月革命が起こった1848年に最高潮となった。ロンドンに亡命中だった**マルクスとエンゲルス**が『**共産党宣言**』を発表したのもこの年だ。

保守党のダービー内閣は考えた。「産業資本家のもとで、低賃金で働く都市労働者に参政権を与えれば、彼らは自由党には投票しない。保守党の支持基盤にできる」

第2回選挙法改正(1867)で、**都市労働者だけに選挙権**を認めたのはそういうわけだ。しかし労働者は農村にもいる。第2次囲い込みで土地を失った人々だ。この人たちに選挙権を与えたら、どちらに投票すると思う？

◎地主に土地を奪われたのですから、地主政党である保守党には入れません。

だよな。自由党の**グラッドストン内閣**は**第3次選挙法改正(1884)**で、**農業労働者の選挙権**を認めた。この内閣は、労働組合法(労働組合の合法化)、アイルランド土地法(小作料の引き下げ)、義務教育法(義務教育の無償化)なども実現している。



このように保守党と自由党が対立しながら支持者を拡大していった結果、男子普通選挙が実現してしまった。フランス人が革命と流血によって実現したことを、イギリス人は投票によって実現したわけだ。

19世紀後半のイギリスは、**ヴィクトリア女王**のもとで二大政党制が確立した時代だ。保守党は**ディズレーリ内閣**のもとで、スエズ運河買収(1875)、インド帝国樹立(1877)など植民地拡大を推進し、保護貿易による植民地囲い込みを推進した。時代は列強による植民地分割の時代——帝国主義の時代に突入する。

ポイント イギリスの選挙法改正			
	対 象	内閣(政党)	背 景
第1回改正(1832)	産業資本家	그레이(自)	仏の七月革命
第2回改正(1867)	都市労働者	ダービー(保)	チャーティスト運動
第3回改正(1884)	農業・鉱山労働者	グラッドストーン(自)	と自保両党の対立
第4回改正(1918)	30歳以上の女性	ロイド=ジョージ(自)	第一次大戦後の
第5回改正(1928)	21歳以上の女性	ボールトウィン(保)	女性の社会進出

④19世紀のアメリカ

最初に質問。アメリカ独立宣言(1776)で独立したのは何という国かな？

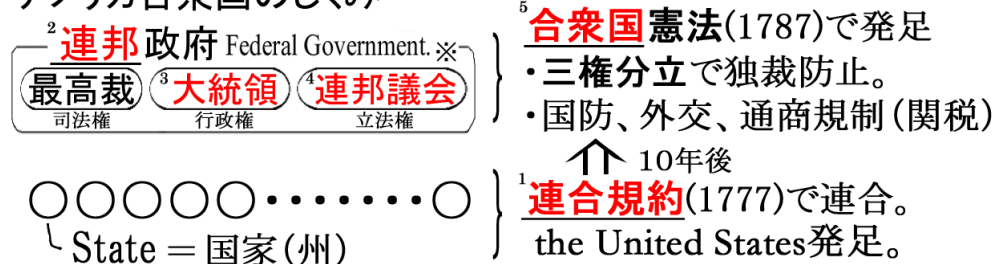
◎アメリカ合衆国、ですね？

残念！13 States だ。State(ステイト)は「国」という意味だから、13の独立国家が誕生したことになる。この13カ国が翌年の**アメリカ連合規約**(1777)で連合(ユナイト)した結果、**the United States of America** という国家ができたんだ。直訳すると「アメリカ国家連合」となる。日本語の「**アメリカ合衆国**」は誤訳だが、慣例なので以後は「合衆国」と呼ぶ。

合衆国の成立後も State 政府(これ以後「州政府」と訳す)はそのまま残り、州の上に強力な中央政府ができることを嫌った。だから中央政府はなく、大統領もいなかった。

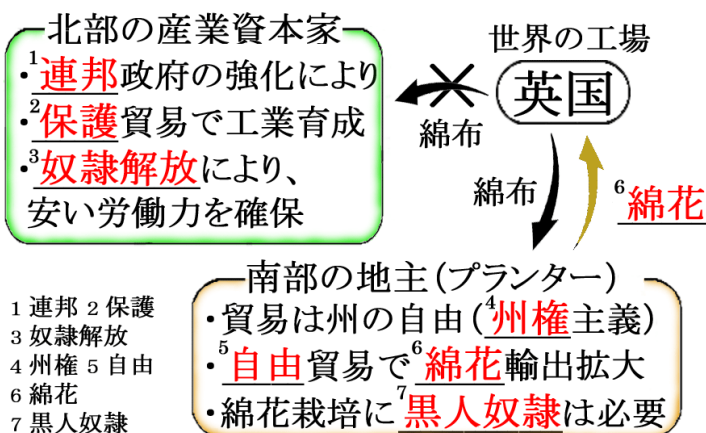
イギリスやフランスや日本は、中央政府が最初にでき、あとで地方政府(州や県)がおかれた。アメリカは逆に、地方政府が先にあり、あとで中央政府(**連邦政府**)をつくった。州政府は連邦政府の強大化を恐れ、**アメリカ合衆国憲法(1787)**で**大統領・連邦議会・最高裁判所**の**三権分立**とし、独裁を防止した。連邦政府の仕事は、国防・外交などに制限した。内政に関する治安維持、防災、公共事業、教育、保健衛生などはすべて州政府の仕事だ。また州は軍隊(州軍)も持っていて、災害や暴動の際には出動する。千葉県や長野県は軍隊を持っていない。日本の都道府県は国家ではないからだ。

アメリカ合衆国のしくみ



※連邦議会

- ・上院…各州2名の代表。
 - ・下院…人口に応じて選出。
- 1 連合規約 2 連邦 3 大統領 4 連邦議会 5 合衆国



13植民地は日本列島とほぼ同じ広さで、北部(ニューイングランド)は北海道・東北、南部(ヴァージニア以南)は関東以南にあたる。温暖な南部では**綿花プランテーション**が広がり、地主(プランター)はイギリスへの**綿花輸出拡大**のため、**自由貿易**を続けたい。寒冷な北部は農業に向かない。工業国を目指す産業資本家は、**保護貿易**(高関税)でイギリスの安い工業製品を排除しようとした。

そこで南部は、「貿易は各州で勝手にやればいい」と主張した(**州権主義**)。

北部はこれに反対し、「貿易は連邦政府が管理すべきだ」と主張し、連邦政府の強化を唱えた。

◎北部は保護貿易、南部は自由貿易で勝手にやればいいと思います。

南部に勝手に自由貿易をされたらどうなるか？ 南部はイギリス商品の市場となり、北部が作った製品が売れなくなる。だから**連邦政府を強化して、南部諸州に保護貿易を強制できるようにしよう**と北部は考えた。これは、19世紀のアメリカ史を理解する上での最重要ポイントだ。南北戦争の根本的な原因も実はここにあるんだ。

奴隷制をめぐっても南北は対立した。綿花プランテーションの労働力として黒人奴隷は必要だ、という南部。一方、北部は、工場で働く安価な労働力を得るため、黒人労働者を募集した。しかし応募する黒人はほとんどいなかった。なぜか？

◎南部の農場の方が好きだったから？？

足に鎖がついていたからだ。南部のプランテーションで黒人たちは鎖をつけられ、鞭打たれて働いていた。牛や馬以下の扱いだ。北部に出稼ぎに行けるはずがない。奴隷を解放すれば、自由になった黒人たちは北部の工場で働くことができるはずだ。

大統領が南北どちらの出身か、連邦議会で多数を占めるのはどちらか、これによって政策は180度変わる。

連邦議会は上下両院に分かれ、上院は各州2名の代表だ。西部開拓で生まれた新しい州が、北部につくか南部につくかで上院のバランスが変わる。だから、北部と南部が、西部開拓を競うことになった。

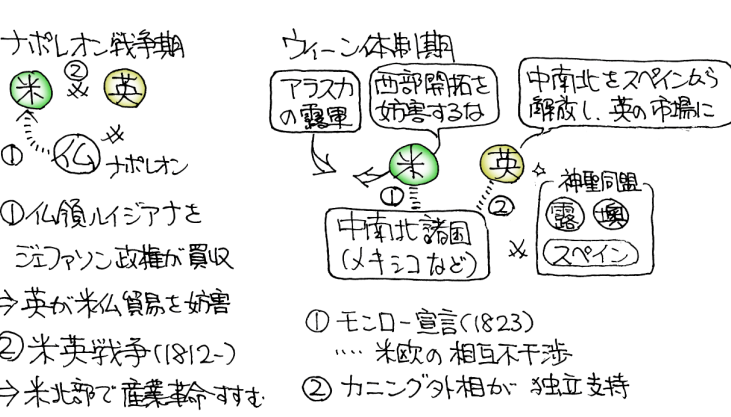
合衆国憲法制定の2年後にフランス革命が始まった。合衆国の指導者は独立の際にフランスに助けももらったので、親仏派が多かった。ナポレオンはミシシッピ川以西の**仏領ルイジアナ**を合衆国の**ジェファソン政権**に売却し、合衆国は領土が倍増した。

ポイント ルイジアナの歴史
①ルイ14世の財務総監 コルベール が植民地建設、 フランス 領に。
② フレンチ・インディアン戦争(パリ条約 1763) ⇒ミシシッピ川以东を イギリス 領、以西を スペイン 領に。
③ アメリカ独立戦争(パリ条約 1783) ⇒ミシシッピ川以东を アメリカ 領、以西は スペイン 領のまま。
④ ナポレオンの統領政府 がミシシッピ川以西を買収、 フランス 領に。
⑤ ジェファソン政権 がナポレオンから買収、 アメリカ 領に。

ナポレオン戦争中、ナポレオンの大陸封鎖令に対抗して、イギリスは米・仏貿易を妨害した。反発したアメリカはフランスと結んでイギリスと戦った(**米英戦争** 1812-14)。この戦争でイギリス製品の輸入が途絶えたため、**北部では産業革命が進行した**。第2次独立戦争とも呼ばれるこの戦争で、「アメリカ人意識」も高まった。アメリカ国歌「星条旗」は、このときの戦闘を歌ったものだ。

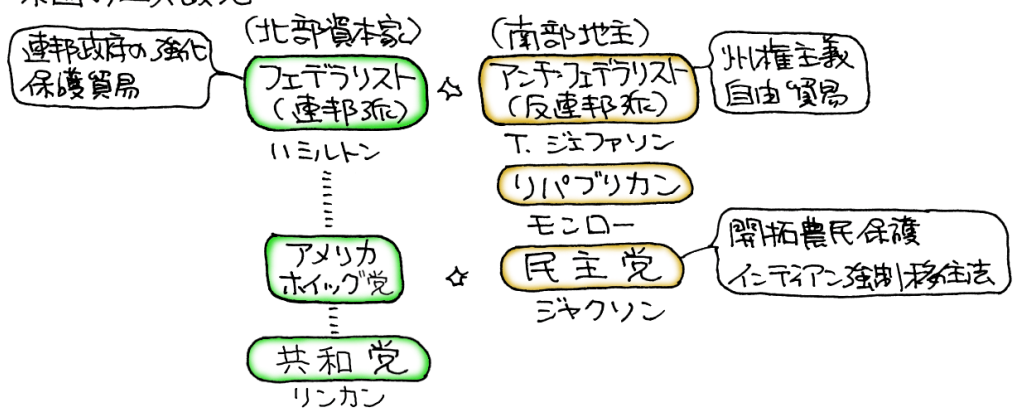
ナポレオン戦争中、中南米諸国がスペインから独立し、スペインはウィーン会議でヨーロッパ諸国に支援を求めた。**神聖同盟**の提唱者である**ロシアがアラスカを領有していた**ため、ロシア軍の南下が検討された。実現すれば、カリフォルニアがロシア領となり、アメリカは太平洋への出口を失う。

モンロー大統領は、「**アメリカ大陸諸国とヨーロッパ諸国の相互不干渉**」を呼びかけた(**モンロー宣言 1823**)。「ロシア軍は入ってくるな！」ということだ。イギリスの**カニング外相**も中南米独立を支持した。イギリスの本音は、中南米諸国をスペインから切り離し、イギリス製品の市場にすることだ。当時のアメリカは小国でロシ



ジャクソン大統領は西部出身の最初の大統領として、開拓農民の期待を背負って当選した。公教育の無償化など民衆の側に立った政治を行なったため、ジャクソンの支持者は**民主党**を創設した。

米国の二大政党

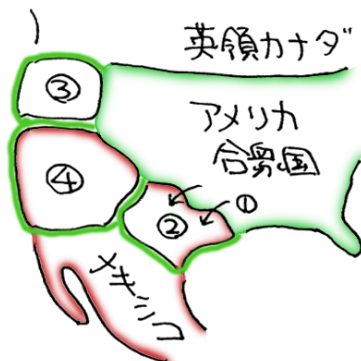


西部開拓というのは、無人の荒野を開拓していったわけではない。銃で武装した白人農民が、**アメリカ先住民(インディアン)**の土地を奪っていったわけだ。当然、先住民は抵抗する。開拓民からの請願を受けたジャクソン政権は、**インディアン強制移住法(1830)**を成立させた。強制移住法は、ミシシッピ川以東の先住民を追放し、ミシシッピ川以西のインディアン居住区に強制移住させるという内容だ。抵抗した部族に対しては連邦軍による攻撃が行われ、命令に従った部族が得たのは西部の荒れ地だった。

アメリカの西部開拓を支えたのは**マニフェスト=デスティニー(明白な天命)**という思想だ。「野蛮な先住民」が住むアメリカ大陸に、キリスト教文明をもたらすのは「白人の使命」だと考えた。だから、先住民迫害に対して罪の意識を感じない。また、この場合の「キリスト教」とはプロテスタントのことなので、「異端」であるカトリック教徒のメキシコは征服してもよい、ということにもなる。

スペインからの独立以来、内戦が続いたメキシコは、アメリカからの大量の移民を受け入れた。この結果、アメリカと国境を接するテキサスでは、英語を話すプロテスタントのアメリカ系移民が多数派となり、**メキシコからのテキサス共和国独立**を宣言、さらにアメリカ合衆国への加盟を求めた。アメリカは**テキサスを併合**し、テキサスとメキシコの国境紛争から**アメリカ=メキシコ戦争／米墨戦争(1846-1848)**^{ほく}が勃発した。メキシコは大敗し、

テキサスのほかに**カリフォルニア**もアメリカに割譲した(1848)。**金鉱が発見**されたのはその直後で、**金を求めて移民が殺到した(ゴールドラッシュ)**。



メキシコ侵略

- ① 移民をテキサスへ送る。
- ② テキサス共和国独立(1836)
⇒ アメリカ合衆国に併合(45)
- ③ オレゴン併合(46) … 英と交渉
- ④ 米墨戦争(46-48)の結果、
カリフォルニア併合

📖 米墨戦争とペリー

米墨戦争で海軍士官として活躍した**ペリー**は、新たな領土となったカリフォルニアの防衛のため、蒸気艦隊の建造を進めた。当時まだパナマ運河が開通していないため、アメリカの太平洋艦隊は**喜望峯・インド洋・マラッカ海峡・南シナ海・太平洋**というルートを通るしかない。この途中にあるのが日本列島だ。

カリフォルニアをロシア軍やイギリス軍から防衛するためにも、北太平洋で操業していたアメリカの捕鯨船のためにも、日本に補給基地を作ることは極めて重要だった。4隻の蒸気船で編成されたペリー艦隊が江戸湾に来航するのは、米墨戦争終結の5年後のことだ。

カリフォルニアはたちまち州に昇格し、のこった地域(カンザスとネブラスカ)をめぐる南北対立が激化した。ここで再び、奴隷制の問題が争点になった。

ストウ夫人の『アンクル・トムの小屋』は、黒人奴隷を主人公にした最初の小説で、読者の心を打った北部では奴隷制反対の世論が高まり、**共和党**が結成された。

1860 年の大統領選挙で、共和党の**リンカン**候補は「**西部への奴隷制拡大反対**」を訴えた。連邦政府の強化と保護貿易という従来の主張に加え、奴隷制度の非人道性を訴える戦術だ。南部を基盤とする民主党は動揺し、民主党大会は奴隷制の拡大を巡って分裂した。民主党の候補者が2人立って票が割れたため、共和党のリンカンが当選した。しかしリンカンの得票率は全体の40%しかなかった。

リンカン当選を認めない**南部11州**が**アメリカ合衆国から離脱し、アメリカ連合国を結成**した。南部だけで大統領選挙をやり直し、**民主党のジェファソン=デヴィス**が大統領になった。だから**南北戦争(1861-65)**になった、という説明は、実は説明になっていない。リンカンが南部独立を認めれば、戦争にはならなかったはずだ。喧嘩ばかりしている夫婦みたいなもので、別れりやいいじゃないか。夫が妻に向かって、

「おまえなんか大嫌いだ！ 絶対別れない！」

と言っているようなものだ。なぜリンカンは南部独立を認めなかったのか？ 南部が独立すれば、貿易はどうなっていたか。自由貿易でイギリス製品の市場となり、北部の製品は売れない。だから力づくでも南部独立を阻止する。これってどこかで聞いた話だよ。ヨーロッパ諸国を征服することで、イギリス製品を排除しようとしたのは…。

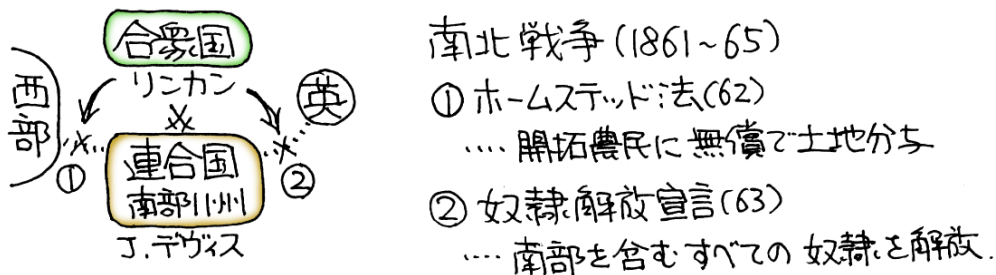
◎あっ、ナポレオン…大陸封鎖令と同じだ！

その通り。ナポレオンを侵略者とすれば、リンカンも侵略者だ。南部の人々は、今でもそう思っている。南部の学校では、南北戦争を「北部による侵略」と教えている。

リンカンにとって避けなければならないのは、イギリスが南部を支援して軍事介入することと、西部の諸州が南部側につくことだった。そこでリンカンは、**ホームステッド(自営農地)法**は、西部開拓農民に土地を無償で分配することを約束し、北部支持を取り付けた。**奴隷解放宣言(1863)**では、南部を含むすべての奴隷解放を約束した。

「イギリス国民の皆さん、この戦争は、貿易もめぐる戦争ではなく、非人道的な奴隷制を認めるかどうかの戦争です。イギリスはそれでも南部を支援するのですか？」

結局、イギリスは中立を保ち、南部は孤立無援となった。



短期決戦を図る南軍が北上したが**ゲティスバーグの戦い**で敗れ、勝敗は決まった。リンカンは戦没者追悼演説で、これは建国の理念である自由のための戦いであり、戦死者の死を無駄にせず、「**人民の人民による人民のための政治**」を守らなければならない、と呼びかけた。しかし北軍は南部を占領し、事実上の植民地とした。戦争終結の直後、劇場で芝居を見ていたリンカンは、南部出身の役者に暗殺された。

合衆国憲法が修正され、**奴隷制の廃止**が明記された(**憲法修正第13条**)。これ以後、共和党政権が続き、保護貿易に転じて北部の工業は急速に発展した。**大陸横断鉄道の開通(1869)**で西部カリフォルニアの市場とも結ばれた。1890年には未開拓地(フロンティア)が消滅し、国内市場は限界に達した。以後、アメリカは海外市場の拡大を目指し、帝国主義列強の一員として膨張政策を推進する。

👉 独立後のメキシコ

中南米の独立運動を指導したのは、植民地生まれの白人(**クリオーリョ**)だった。ベネズエラの**シモン・ボリバル**も、アルゼンチンの**サン・マルティン**もクリオーリョで、大土地所有者だった。先住民(インディオ)や白人と先住民の混血(メスティーソ)の大半は小作人として、植民地時代と変わらぬ貧困の中にあり、これは現在もほとんど変わっていない。

ところが**メキシコ**の場合はちょっと違う。アステカ王国の末裔であるインディオは圧倒的に人口が多く、白人支配に屈しなかった。独立後も白人とインディオとの内戦が続いた。インディオ出身の自由主義者**フアレス**が大統領に就任すると、債務不履行を口実にフランスの**ナポレオン3世**が**メキシコ出兵**(1861-65)を行い、甥の皇族マクシミリアンをメキシコ皇帝として擁立した。フアレスは抵抗を続け、南北戦争を終えたアメリカ合衆国もフランス軍撤退を要求した。ナポレオン3世は撤退し、見捨てられたマクシミリアンはフアレス軍に処刑された。

次の**ディアス**大統領はメスティーソ出身で、**アメリカ資本の導入によるメキシコ近代化**を図った。この結果、油田や鉄道はすべてアメリカ人の所有となり、民族資本は成長せず、貧富の差が拡大した。30年以上続いたディアス独裁政権に対し、**民族資本家のマデロ**や**農民指導者サパタ**が立ちあがり、**メキシコ革命**(1910-17)でディアス政権は倒された(1911)。

⑤ドイツ・イタリアの統一

たとえば江戸時代にタイムスリップして、人々に「あなたは何人ですか」と聞いてみる。「日本人」と答える人はいない。「会津でござる」、「薩摩でござる」、などと答えるだろう。「くに」という言葉は自分の「出身地」や「藩」という意味だったからだ。日本は中世以来、地方ごとに大名(諸侯)が領地(藩)を治めていて、統一国家ではなかったからだ。

「日本人」と、はっきり意識したのはいつからか。幕末のペリー——来航(1853)からだ。「黒船に乗ってきたのはアメリカ人、おれたちは日本人」という意識が生まれたんだ。

「自分たちは〇〇人だという意識」、これをナショナリズムという。ナショナリズムが強烈になるのは、共通の敵が現れた時だ。そして「日本人」が生まれた半世紀前に、「ドイツ人」や「イタリア人」も生まれたのだ。それはやっぱり、「共通の敵」に対抗するためだった。

◎ドイツ人の「共通の敵」って何ですか？

ナポレオンが率いるフランス軍だ。ウェストファリア条約以来 300 を超える領邦に分裂していたドイツは、ナポレオンのフランス軍に占領された。このときはじめて、「おれたちはプロイセン人、ザクセン人、オーストリア人ではない、ドイツ人だ！」という意識が生まれた。哲学者フヒテが『ドイツ国民に告ぐ』という講演を行った。「諸君はいま敗戦で打ちひしがれているが、若者を教育し、ドイツを復興しよう！」フランス軍と戦ったドイツの若者たちは学生組合(ブルシェンシャフト)を組織し、ドイツの「統一と自由」を掲げた。黒・黄・赤の軍服の色をデザインした三色旗はこのとき考案され、現在のドイツ国旗として使われているんだ。

ナポレオン戦争の勝利は、ドイツ統一の絶好のチャンスだった。ウィーン会議では、統一ドイツが実現するのではと学生たちは期待した。ところが会議で決まったことは、35君主国と4自由市の緩やかな連合体であるドイツ連邦の発足だった。これは、年に1回、フランクフルトに39カ国代表が集まるというだけで、統一国家ではない。ブルシェンシャフトは解散を命じられ、抵抗する学生たちは逮捕された。ドイツ統一を握りつぶしたのは誰か？ ウィーン会議の議長でオーストリア外相のメッテルニヒだ。

◎メッテルニヒは、どうしてドイツ統一を邪魔するんですか？

オーストリア帝国が多民族国家だからだ。「一民族で一国家」というナショナリズムが高揚すると、オーストリア帝国は崩壊する。帝国内のドイツ人地域は4分の1でしかない。残りの地域では少数民族のチェコ人やハンガリー人、クロアチア人が独立するだろう。帝国崩壊を避けるため、オーストリアは一貫してドイツ統一を妨害しつづける。

一方、プロイセンはドイツ統一を歓迎する。メリットがあるからね。

◎プロイセンにとって統一のメリットは何ですか？

ウィーン会議で獲得した鉱工業地帯のラインラントが飛び地になっているからだ。採掘した石炭をプロイセン本国へ運ぶ時、小さな国々の国境線を何度も越えて、そのたびに関税を取られる。こんなばかんな話は無い。だから統一しちやえ、ってことになる。

「48年と49年の失敗」とはフランクフルト国民議会のことだ。「鉄と血」は軍隊。話し合いではドイツ統一はできない、武力統一するしかない、ってことだ。

ビスマルクは軍服を着ているイメージが強いが、実は外交官出身だ。外交官は武力を脅しには使うが、戦争は極力避ける。ビスマルクの考えはこうだ。

「プロイセンがドイツ諸国を併合するのは簡単だが、恨みを買う。小国が**オーストリア**や**フランス**に助けを求めればプロイセンは包囲され、七年戦争の悪夢がよみがえる。だからこちらからは決して攻撃しない。相手から先に手を出させる」

◎相手を挑発してキレさせ、自分は被害者としてふるまうってことですね。

デンマーク南部にある**シュレスヴィヒ・ホルシュタイン**の2州はドイツ系の住民が多く、**デンマーク**からの**独立運動**がおこった。ビスマルクはオーストリアを誘って共同出兵し(**デンマーク戦争**)。オーストリアに譲ると約束したホルシュタインを譲らず、オーストリアを挑発した。これに乗ったオーストリア側の開戦で**普墺戦争(1866)**が勃発。

7週間戦争ともよばれる短期決戦でプロイセンは圧勝。北ドイツ諸国はドイツ連邦を脱退し、**プロイセンを盟主とする北ドイツ連邦**を結成した(1867)。

敗北したオーストリアでは国内の民族運動が激化したため、ハプスブルク家は最大の少数民族である**ハンガリー(マジャール人)**に自治を認め、**オーストリア=ハンガリー帝国**と改名した。ハンガリー政府と議会を認め、オーストリア皇帝がハンガリー王を兼ねた。ハンガリーはオーストリアに協力し、チェコなどスラヴ系民族の独立運動を弾圧した。オーストリア=ハンガリー帝国は、第一次世界大戦の敗北まで続いた。

ポイント オーストリア帝国内の民族運動			
三月革命(1848)で民族独立運動が高揚(諸国民の春)。普墺戦争と 第一次世界大戦 でオーストリアが敗れたことで、彼らは独立を実現した。			
	ハンガリー	チェコ(ベーメン)	クロアチア
三月革命(1848) (諸国民の春)	コッシュート の独立運動が失敗。	スラヴ民族会議 を招集。	墺のハンガリー独立鎮圧に協力。
普墺戦争(1866)の後	自治権を獲得。	——	——
第一次大戦後の サン=ジェルマン条約(1919)	ハンガリー王国 として独立。	チェコスロヴァキア共和国 として独立。	セルビアに併合(ユーゴスラヴィア)

📡 電信(モールス信号)とドイツ統一
アメリカ人 モールス が発明した 電信 (電報/モールス信号)は情報革命を引き起こした。パリの二月革命成功のニュースは、全ドイツ・イタリアに伝わって 三月革命 を引き起こした。
普墺戦争 を指揮したプロイセン軍のモルトケ参謀総長は、軍隊を列車で移動させ、ベルリンからの指令を電信で瞬時に前線まで伝えた。一方のオーストリア軍は馬車で移動し、通信には伝書鳩を使っていた。これでは勝てっこない。

◎最後はフランスですね。

ナポレオン3世を挑発するのは簡単だ。国内をまとめるために常に外敵を求めていたからね。ちょうど、**スペイン王位継承問題**が起こった。ブルボン家の女王を追放したスペイン革命政府に対し、ビスマルクはプロイセンの王族をスペイン王として推薦した。プロイセン王とスペイン王が親戚となり、挟み撃ちされることを恐れたナポレオン3世は激怒、**エムス電報事件**を機にフランス側から開戦して**普仏戦争(1870-71)**が勃発する。

📌 エムス電報事件

プロイセン王ヴィルヘルム1世は、フランス国境に近いエムス温泉で保養中だった。そこに、フランスの大使がやってきて「スペイン問題から手を引け」と要求した。

王からの電報を受けたビスマルクは、フランス大使がプロイセン王を侮辱し、王が激怒して大使を追い返したように電文を修正して発表した。ナポレオン3世は挑発にのり、開戦した。

普仏戦争では南ドイツ諸国もプロイセン側につき、**セダンの戦い**で**ナポレオン3世は捕虜**となった。ドイツ連合軍はパリを包囲し、ビスマルクは**ヴェルサイユ宮殿でドイツ帝国の樹立を宣言**した(1871)。プロイセン王**ヴィルヘルム1世がドイツ皇帝**に即位し、ビスマルクは帝国宰相に任命された。フランクフルト講和会議でアルザスとロレーヌを取り戻したドイツは、このあと列強の一員として国際政治の中心になっていく。



ドイツ統一

- ① シュレスヴィヒ・ホルシュタイン問題
⇒ デンマーク戦争
- ② 普墺戦争(1866)
- ③ 普仏戦争(1870-71)

次は、イタリアを見てみよう。古代ローマの中心だったイタリアも、中世以来、長い分裂が続いたね。

イタリア統一



◎ジェノヴァとか、フィレンツェとか…

そうそう。北部には都市共和国、南部には**ナポリ=ブルボン家**、真ん中に**教皇領**があった。ウィーン会議で**ロンバルディアとヴェネツィア**を併合した**オーストリア**はイタリア統一に反対。隣国が統一され強大化することを恐れるフランスも、イタリア統一に反対。オーストリアとフランスが抵抗勢力、っていうのは、ドイツ統一の場合と同じだ。

ジェノヴァ人、ナポリ人意識が、「イタリア人」意識に代わったのはナポレオン戦争のときだ。フランス軍に占領されたイタリア各地で抵抗運動が

起こった。その中心となった組織が、**カルボナリ(炭焼党)**だった。炭焼職人の組合に偽装して革命活動を行う秘密結社だ。

📌 秘密結社

メンバーも本部の場所も明かさず、秘密工作を行う組織のことだ。秘密結社で有名なのは、イギリスのフリーメイソン(自由な石工)だ。聖堂建設に従事する石工組合(ギルド)に偽装し、啓蒙思想の普及と絶対王政の打倒を目的とした。ラファイェット、トマス=ジェファソンなど、アメリカ独立やフランス革命の指導者の多くが加わっていたといわれる。

カルボナリは、炭焼き職人の組合に偽装した点では、よく似ている。イタリア語の「カルボ」は英語のカーボン、炭のことだ。秘密結社は秘密を守るのにはいいが、一般市民の共感を得るのが難しい。カルボナリも大衆運動に発展することなく、オーストリアに鎮圧された。

カルボナリの蜂起(1820,1830)がメッテルニヒに弾圧されたあと、イタリア統一運動を引き継いだのは、**マッツィーニ**が結成した**青年イタリア**だ。フランスを拠点にパンフレットやビラを作成し、広く大衆に呼びかけてイタリア統一を実現しようとした。

1848年、**ドイツ三月革命**の嵐の中でウィーン体制が崩壊した。教皇が脱出したあと、ローマ市民はマッツィーニを迎え、**ローマ共和国**の成立を宣言した。ところが、フランス大統領の**ルイ=ナポレオン**が軍事介入してローマ共和国は崩壊させ、教皇をローマに復帰させた。イタリア統一を阻止すると同時に、カトリック教会の守護者としてフランス国内世論の支持を固めようとした。これ以後、普仏戦争まで**フランス軍がローマ占領を続ける**。

ドイツではブルシェンシャフト、フランクフルト国民議会という「下からの統一」が失敗したあと、プロイセン王国による「上からの統一」が進んだ。

イタリアでもカルボナリ、ローマ共和国という「下からの統一」が失敗したあとで、**サルデーニャ王国**による「上からの統一」が始まる。

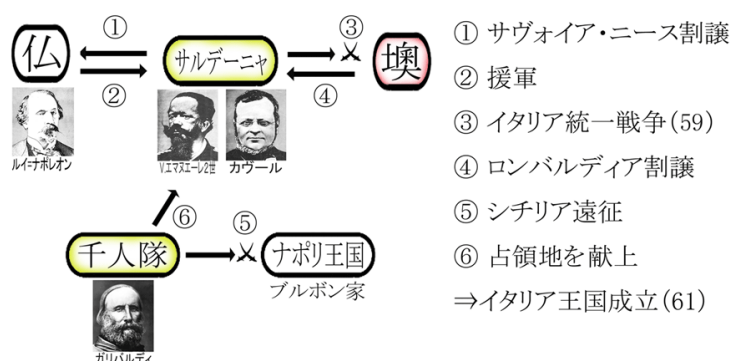
◎サルデーニャってどんな国ですか？

日本列島が逆立ちしたのがイタリアだ。最南端のシチリア島は北海道。牧草地と小麦畑が広がる農村地帯。ナポリは東北地方。教皇領が関東地方。サルデーニャが阪神工業地帯だ。資本家は国内統一の市場を望む。

しかし、サルデーニャはスイスと同じくらいの小国だ。イタリア統一を邪魔するフランスとオーストリアにどう対抗するか？ **サルデーニャの首相カヴール**は考えた。

「フランスとオーストリアを争わせよう」

イタリア統一



カヴール

「我々サルデーニャはオーストリアと戦い、ロンバルディアを取り返します。オーストリアは叔父上の仇。ぜひ援軍を」
ナポレオン3世

「では援軍の見返りに、サヴォイアとニースをいただく」

カヴール

「ぐっ……わかりました」

イタリア統一戦争(1859)で、サルデーニャはオーストリアに勝利し、**ロンバルディア**を奪回した。しかし、援軍を借りたフランスに**サヴォイアとニース**を奪われた。ヴェネツィアを奪回しようとするれば、フランスに何を要求されるかわからない。カヴール首相は動けなくなってしまった。ここで第3の男**ガリバルディ**が登場する。

◎ガリバルディって何者ですか？

マッツィーニとともに**青年イタリア**を組織した共和派の革命家だ。ニース出身の彼は、カヴールがニースをフランスに割譲したことに激怒した。**千人隊**という義勇兵を組織して、下からのイタリア統一を目指した。

「**シチリア島**をナポリ=ブルボン家から解放し、ナポリ王国本土に攻め込もう！」

シチリアの農民が蜂起し、ふくれあがった革命軍は、ナポリ王国を崩壊させた。あわてたカヴールも国王を説得してサルデーニャ軍を南下させ、両軍はナポリ近郊で出会う。ガリバルディは内戦回避のため、サルデーニャ王と会見した。

「私の望みはイタリア統一のみ。南イタリアの全占領地を、国王陛下に献上します」

サルデーニャ王**ヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世**はイタリア王として即位。**イタリア王国が成立した(1861)**。この年は、**アメリカ南北戦争**が始まった年、**ロシア農奴解放令**の年でもあるから重要だ。ガリバルディはいかなる権力も求めず、最後まで一革命家として生きた。いまでも南イタリアでは英雄だ。

◎ガリバルディ、カッコよすぎ！ これで統一完成ですね。

いや、イタリア王はローマに入れない。フランス軍が占領中だからだ。オーストリアはまだヴェネツィアを返さない。このあとイタリアはドイツと同盟し、**普墺戦争**で敗れたオーストリアからヴェネツィアを取り返した。しかし普墺戦争が短期で終わってしまったので、**トリエステと南チロル**はオーストリア領として残り(**未回収のイタリア**)、第一次大戦の原因の一つとなった。4年後の**普仏戦争**では、敗れたフランスからローマを取り返し、ローマをイタリア王国の首都とした。最後まで、ドイツ任せだった。

一方、「ピピンの寄進」以来の教皇領を奪われた教皇は激怒、「ヴァチカンの囚人」と自称して、イタリア王国を認めなかった。この問題は、第一次大戦後に**ムッソリーニ政権**が解決する(1929 **ラテラン条約**)。

1861年にイタリア統一、1868年に日本統一(明治維新)、1971年にドイツ統一と続いて、伊・日・独の3国が、世界史の表舞台に登場した。明治維新の指導者・伊藤博文は、ドイツを訪問してビスマルクに会っている。日本の近代化、とくに陸軍はドイツ式を取り入れた。すでに英・仏はアフリカと東南アジアの植民地化に乗り出しており、出遅れた3国は急速な軍備増強を続け、植民地をめぐる英・仏と対立するようになる。これが、2つの世界大戦の原因の一つとなったわけだ。

⑥ロシアと東方問題

ロシアはかつて、モスクワ大公国という小国だった。それが数百年かけて周辺民族を次々に併合し、19世紀には世界最大の帝国になった。少数民族の割合は人口の50%に達していた。このような国で、西欧型の民主主義を採用したらどうなるか。参政権を得た少数民族がいつせいに独立を要求したら…

◎ロシア帝国、終了ですね。

だからロシア帝国を維持するためには専制・独裁しかない。民主化運動や少数民族の独立運動は徹底的に弾圧する。これがロマノフ朝の基本政策だ。ナポレオンを撃退したアレクサンドル1世の息子、**ニコライ1世**の時代に最初の革命運動が起こった。**デカブリストの反乱(1925)**だ。

フランスの革命思想に影響されたロシア軍の青年将校たちがデカブリスト(十二月党)という秘密結社をつくり、憲法制定と農奴制廃止を掲げて、ニコライ1世の即位の日に蜂起したが一日で鎮圧された。首謀者は処刑、残りはシベリア送りになった。

次に起こったのが**ポーランド独立運動**だ。ポーランドはウィーン会議でロシアと同君連合(ロシア皇帝がポーランド王を兼ねる)とされ、事実上ロシアに併合された。ニコライ1世がフランス**七月革命**(1830)鎮圧のためポーランド兵を派遣しようとしたことに反発して**ポーランド反乱**(十一月蜂起)が起こったが、ロシア軍に鎮圧された。1万人のポーランド人がフランスなどへ亡命し、その中には作曲家の**ショパン**もいた。彼はポーランド独立をたたえる曲をたくさん作り、愛国者としても尊敬されているんだ。

三月革命(1848)のとき、オーストリア帝国内のハンガリー独立運動弾圧のためロシア軍が出兵し、「**ヨーロッパの憲兵**」として恐れられた。他国の革命運動まで弾圧する。憲兵っていうのは軍事警察のことだ。

19世紀最後のポーランド反乱は、1863年に起こった(1月蜂起)だ。クリミア戦争に敗れ**農奴解放令**を出した**アレクサンドル2世**のロシア政府が妥協するだろうという甘い見通しは裏切られ、再び激しい弾圧を受けた。ポーランド独立はロシア革命まで延期された。

📖 ポーランドとロシアの対立

同じスラヴ系だが、**ポーランド人はカトリック教徒でラテン文字を使い、ロシア人は正教徒でキリル文字を使う**。ロシアの発展の歴史は、ポーランドの亡国の歴史だった。1863年のポーランド反乱のあと、ポーランド語の地名はロシア語に書き換えられ、学校ではポーランド語の使用も禁止された。ポーランド人の物理学者マリ=キュリー(キュリー夫人)は、小学校時代の思い出を語っている。ポーランド語が禁止されロシア語を教えることになったが、先生はひそかにポーランド語の授業を続け、民族の文化を守ったのだと。

次は外交だ。飛行機のない時代、植民地との貿易はすべて船で行われた。イギリスのように大海軍を持つ海洋国家が世界の覇権を握っていた。**ロシアが後進国だったのは、海への出口が限られていたのが最大の原因だ**。

ロシアが利用できる海は、バルト海、黒海、オホーツク海の3つだ。**バルト海とオホーツク海**は、冬の間ガチガチに凍りつく。**黒海**は凍らないが、唯一の出口であるボスフォラス海峡は、オスマン帝国の首都イスタンブールの玄関口にあたり、自由な航行はできない。だからバルカン半島を通して地中海へ出るか、満州を通過して日本海へ出るしか方法がない。

「不凍港を求めて南下する！」これがロシアの基本政策になった。そのために、バルカン半島からオスマン帝国を追い払う。オスマン帝国の支配下にあるギリシア正教徒、スラヴ系民族の民族独立運動を支援する、ということになる。

◎ポーランドをいじめるロシアが、バルカン半島の民族運動を支援するんですか？

そう。これは矛盾するようで、矛盾していない。「不凍港の獲得」というロシア帝国の政策は変わっていないんだ。しかしロシアのバルカン政策は、英・仏・オーストリアとの関係を悪化させた。多民族国家のオーストリア帝国にとって、バルカン半島の民族独立運動は、自国に飛び火してくる恐れがあるので絶対に認められない。

ところで、イギリスの外交方針の原則は何だっけ？

◎え〜っと、植民地の拡大、インド＝ルートの確保！

そうだね。地中海⇒エジプト⇒インドという貿易ルートの安全を死守したいイギリスと、ライバルのフランスにとって、地中海にロシアの軍艦がうろちょろされては困る。できれば、エジプトをオスマン帝国から切り離して支配下におきたい。

このように、オスマン帝国の領土をめぐる英・仏・露の利害が対立したことを、**東方問題**といい、19世紀には大きな戦争が4回起こった。順番に説明しよう。

① ギリシア独立戦争(1821～29)

ロシアの南下政策を利用してオスマン帝国からのギリシア独立を実現しようという運動が南ロシアのギリシア人の間で起こった。オスマン帝国がこの運動を弾圧すると、古代ギリシアの文明にあこがれる西欧の人々の間でも、ギリシアへの同情が広がった。

「シオ島(キオス島)の虐殺」を描いたのは、「民衆を導く自由の女神」で有名な画家、**ドラクロワ**だ。エーゲ海の小島、キオス島(シオ島)で起こった事件を想像で描いたものだ。イギリス・ロマン派の詩人**バイロン**も義勇兵に志願し、ギリシアで病死している。

ギリシア独立戦争を支援してオスマン帝国から独立させ、インド＝ルートの防衛拠点にしたい英・仏、混乱に乗じてバルカン半島を支配下に置きたいロシアがギリシアを軍事援助し、1830年の**ロンドン会議**でギリシアは正式に独立を認められた。

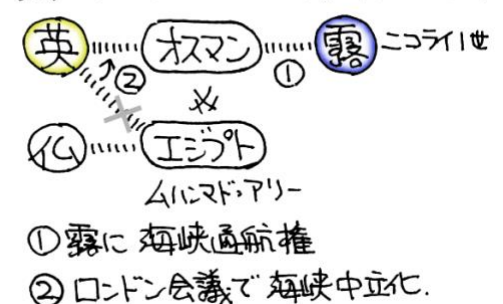


▲ドラクロワ「シオの虐殺」

① ギリシア独立戦争(1821～29)



② エジプト・トルコ戦争(1831～40)



② エジプト・トルコ戦争/エジプト事件(1831～40)

ギリシア独立を横目で見ながら、「オレも…」と考えたのが、傭兵隊長からエジプト総督にのし上がった**ムハンマド＝アリー**だ。シリアを併合しようとして主君にあたるオスマン帝国と戦争になり、英・仏の支援を受けた。オスマン帝国から支援を求められたロシアは、オスマン支援の見返りにあることを要求した。領土？ いや、もっと簡単なことさ。

黒海と地中海を結ぶ2つの海峡、**ボスフォラス海峡**と**ダーダネルス海峡**の**海峡通航権**を要求し、認めさせたのだ(ウンキヤル=スケレス条約)。ロシア軍艦が海峡を自由に通れるなら、バルカン半島を通らなくても、地中海へ出られる。南下政策成功だ。

イギリスが即座に反応する。「ヤバいっ!」。しかしイギリスがエジプトを支援する限り、オスマン帝国はロシアに傾いていく。さあ、どうする?

◎エジプト支援をやめて、オスマン側につく?

正解。イギリスはオスマン側に寝返った。戦争は引き分けとなり、**ロンドン会議**(1840)で講和した。会議を仕切った**パーマストン外相**は、ロンドン条約をまとめた。

1. エジプトのシリア領有権は認めない。
2. **ムハンマド=アリー家のエジプト総督世襲**を認める。
3. **ロシアの海峡通航権は認めない**(両海峡の中立化)。

こうしてイギリスは、ロシアを再び黒海に封じ込めた。しかしエジプトはイギリスを信用しなくなり、フランスびいきになった。**スエズ運河建設権**もフランスに与えた。

③ **クリミア戦争**(1853~56)

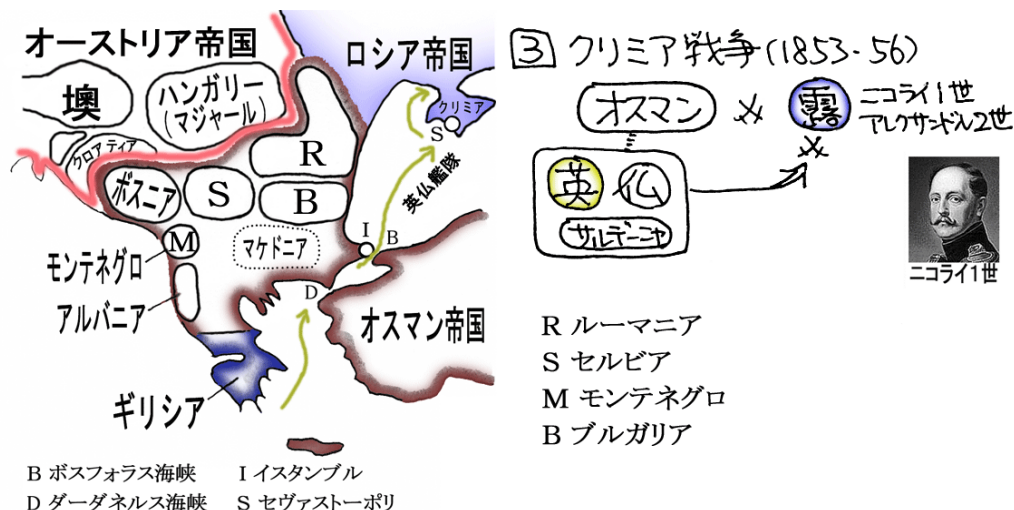
ロシア皇帝ニコライ1世は、ギリシア独立、エジプト・トルコ戦争に介入したのに、英・仏の妨害でほとんど何も得られず、苛立ちを強めた。フランスでは**ナポレオン3世**が即位し、**聖地管理権問題**で露・仏関係が極度に悪化した。

📖 **聖地管理権問題**

キリスト教の聖地エルサレムをどの国が管理するかという問題。中世にはこの街をめぐる十字軍が起こったので、オスマン帝国もこの問題には気を使い、伝統的に友好関係にあったフランス=ブルボン家に管理権を預けていた。ところが、フランス革命が勃発し、キリスト教を否定するジャコバン政権が聖地管理権を手放した。管理権を引き継いだのが、正教会のロシア帝国だ。

半世紀後、フランスのナポレオン3世は、「やっぱり聖地を返せ!」と要求してきた。近代化(タンジマート)推進のためフランスの資金と技術が必要だったオスマン帝国はフランスの要求に屈した。メンツをつぶされたニコライ1世は、これを口実にクリミア戦争を開戦した。

ロシアの南下を阻止するため、**英・仏・サルデーニャ**の西欧連合軍が出動した。連合艦隊は海峡を通過して黒海に侵入し、ロシア黒海艦隊の本拠地である**クリミア半島**の**セヴァストーポリ要塞**を包囲し、激戦の末、陥落させた。



この戦争は、ナポレオン戦争以来の大戦争になり、クリミア半島だけで数万の犠牲者が出た。負傷者が担ぎこまれたイスタンブールの病院で、活躍したのがイギリス人看護師**ナイティンゲール**。彼女の活動は、スイス人**アンリ=デュナン**に受け継がれ、「敵味方の区別なく負傷者を救う」という**国際赤十字**の設立につながった。この戦争に従軍したロシアの作家**トルストイ**は『セヴァストポリ物語』を著し、のちに『戦争と平和』でナポレオン戦争を描き、反戦作家として日露戦争に反対する。

パリ条約(1856)で**黒海の中立化**、すなわち**ロシア黒海艦隊の禁止**を決定。ナポレオン3世にとっては得意の絶頂だ。伯父ナポレオン1世が勝てなかったロシアに圧勝したのだ。ロシアは南下どころか、後退させられた。ロマノフ朝建国以来はじめての大敗北だ。皇帝ニコライ1世は急死し(自殺説あり)、息子**アレクサンドル2世**が即位した。

◎ロシア軍は、どうしてクリミア戦争で大敗したんですか？

蒸気船を持つ英・仏艦隊に、帆船が主力のロシア艦隊が敗れたのだ。ロシアの近代化の遅れが、敗北の原因であることは明白だった。若い皇帝は決意した。

「産業革命を起こす。ロシア海軍も蒸気船を持つ！」

なぜ産業革命がロシアでは起こらないのか。イギリスでは第2次囲い込みで生まれた失地農民が、都市労働者になっている。ロシアの農民はなぜ都市へ行かないのか。

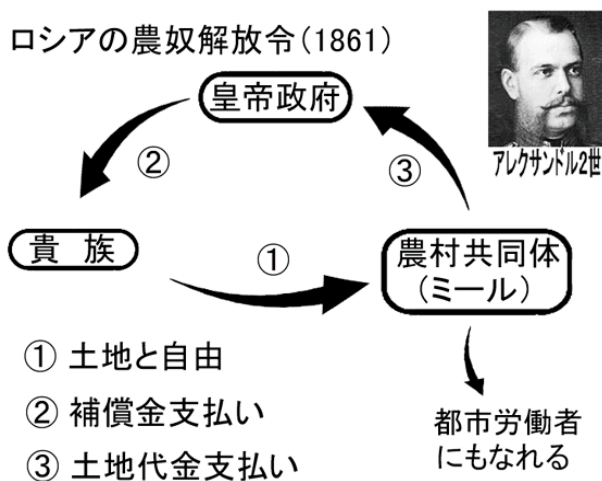
「陛下、農奴制でございます。彼らには移動の自由もございません」

「勅令を出す。農奴を解放する！」

アレクサンドル2世の農奴解放令(1861)は、19世紀ロシア史の最重要事項だ。

1. 農民に土地代金を支払わせる**(有償で土地分与)**
2. **土地所有権は個々の農民ではなく、村落共同体(ミール)が持つ。**

ロシアの農奴解放令(1861)



▲ レーピン「ヴォルガの船ひき人夫」

◎ミールって何ですか？

ロシアの伝統的な「村」のこと。共同で農作業を行い、土地の割り替えも行っていた。個々の農家があまりに貧しいので、村全体で連帯責任にして土地代金を支払わせる。「土地が欲しければ村に残って、ミールの一員として土地代金を支払え」

「カネが払えぬなら土地はあきらめて、都市労働者になれ」

ということだ。

クリミア戦争勃発の1853年に**ペリー**の**黒船艦隊**が日本に開国をせまった。この衝撃から明治維新が始まった。つまり、同じ時期に蒸気船(黒船)ショックを受けたロシアと日本が、近代国家に生まれ変わったわけだ。ク

リミア戦争は、ロシア版「黒船来航」だった。急速に近代化を進めた両国は、半世紀後に日露戦争で激突することになる。

近代化を急ぐアレクサンドル2世に朗報が届いた。**普仏戦争**でナポレオン3世が失脚したのだ。アレクサンドル2世はドイツに接近し、フランスに強要された**パリ条約を破棄**して黒海艦隊を再建した。ビスマルクはフランス包囲網として、独・墺・露の**三帝同盟**を結成した(1873)。アレクサンドル3世は強力な同盟国を得て強気になった。

④露土戦争(1877-78)

1877年、ロシアは正教徒支援を口実にオスマン帝国に侵攻。セルビアなどバルカン半島の諸民族もいっせいに立ち上がった。イスタンブールの近郊にまで迫ったロシアは、オスマン帝国と**サン=ステファノ条約(1878)**を結んだ。

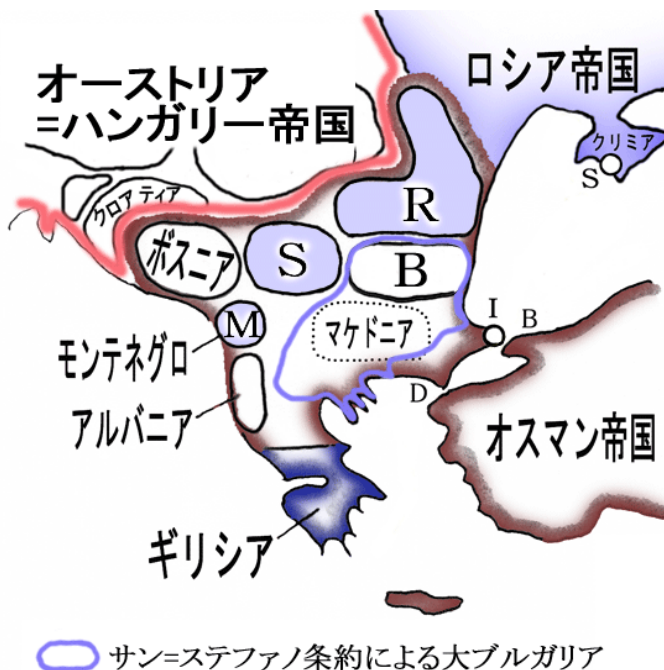
- ①**ルーマニア・セルビア・モンテネグロの独立**を認める。
- ②**ブルガリアはロシアの保護国**とし、ロシア軍が駐留する。
- ③ブルガリアの領土を南に拡大し、**マケドニアを含む大ブルガリア**とする。
(ロシアは地中海への出口を獲得し、南下政策を実現する)

イギリス首相**ディズレーリ**は地中海に艦隊を派遣し、ロシアを脅迫した。

「ブルガリアを手放せ。もう一度、クリミア戦争をやりたいのか？」

バルカン諸国独立に反対しているオーストリアもオスマン側につく。三帝同盟の分裂だ。もしも、第2次クリミア戦争になった場合、英・仏が同盟すれば、英・仏・墺 VS 独・露という図式になり、独・露は包囲されて必ず負けるだろう。フランスはアルザスを奪回し、ドイツは再びバラバラにされるかもしれない。ビスマルクは焦った。(戦争を止めろ！)

「みなさん、バルカン問題を話し合う**ベルリン会議**を開催しましょう」



④ 露土戦争(1877-78)



- R ルーマニア
- S セルビア
- M モンテネグロ
- B ブルガリア

ビスマルクがまとめたベルリン条約(1878)は、こういう内容だ。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">① ルーマニア・セルビア・モンテネグロの独立は認める。⇒露のメンツを立てる。② 露は、ブルガリアをオスマン帝国に返還する。⇒露の南下を阻止。③ オスマン帝国領キプロス島の行政権を英に与える。⇒英に配慮。④ オスマン帝国領ボスニア=ヘルツェゴヴィナ行政権を奥に与える。⇒奥に配慮。
(行政権は軍事警察権のこと。保護国化と同じ意味だ) |
|---|

◎ドイツは何を得たんですか？

ビスマルクは「誠実な仲買人」として調整役に徹し、領土はまったく要求しなかった。しかし第2次クリミア戦争を回避し、ドイツは「露・奥・英からの信用」という目に見えないものを得た。フランスの孤立状態は続き、当面ドイツに手出しができなくなった。これがビスマルク外交の真髓だ。

しかし、ロシアの南下は結局阻止され、問題は先送りされた。ベルリン会議の30年後、再びロシアはバルカン進出をはかり、これを阻止しようとするドイツ・オーストリアと対立。これが、**第一次世界大戦(1914～)**の直接の要因となるのだ。